

平成29年2月14日（火）「第3回 地域づくり小委員会」が開催されました。

■開催概要

「第3回 地域づくり小委員会」が平成29年2月14日(火)に釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室で開催されました。

小委員会には、33名（個人13名、12団体13名、関係行政機関7機関7名）（一部兼任）が出席し、一般の方も傍聴されました。

議事では、6班に分かれて、ワークショップが行われました。平岡委員長代理から、ワークショップの趣旨や進行スケジュール、議論する上でのルールなどの説明があり、前半は、「地域づくり小委員会参加委員の活動内容の情報共有について」をテーマに、委員同士の情報共有を図りました。

後半は、「地域づくり小委員会で議論したい内容について」をテーマに活発な意見の交換が行われ、最後に各班から議論した内容について、発表が行われました。



▲第3回 地域づくり小委員会（平成29年2月14日）

■地域づくり小委員会とは

地域づくり小委員会は、地域産業と連携した湿原のワイズユースにより、湿原を保全・再生し、将来にわたり地域産業が豊かになる取組を進めるために設立されました。今後は、賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方と、湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について、議論を進めていく予定です。

1 地域づくり小委員会参加委員の活動内容の情報共有について

各班から出された活動内容や釧路湿原で知っていることなどの情報の主なもの（一部抜粋）

- ツルの絵画展、JALのツル絵画展、子供の絵画展（釧路管内）
- カヌーでの野生生物観察（釧路川）
- カヌーの安全対策としてリスクマネジメント講習の実施（釧路川）
- タンチョウの交通事故多発地帯（標茶町）
- イトウ保護条例制定へ向けて活動（釧路川流域）
- 観光資源としてのニジマス放流（屈斜路湖）
- 国立公園クリーンデー、ゴミ拾い（鶴居村温根内、細岡展望台）
- JICAの湿原をテーマにした研修
- 事業所や従業員に湿原にゴミを捨てないように啓発グッズを配布
- 釧路川環境調査（植物・動物など）
- スマオロ地区旧川復元
- 釧路湿原の魅力をPRするスーパーハイビジョン映像の撮影・番組制作・展示上映
- オオハンゴウソウなどの外来種防除
- 海外の湿原との連携（アジア・オーストラリア・中東）
- 釧路湿原での自然散策ツアーガイド
- シャケ稚魚の放流式、シャケ稚魚の里親
- 冬期にトイレが使えない。トイレが少ないなどの情報が出されました。

○ワークショップ風景



○地図上に貼られた各委員から出された情報



2 地域づくり小委員会で議論したい内容等について

各班で議論が行われました。

議論された主な内容

- 釧路湿原に人を連れてくると、とても良いところだと言われるが、本州の人や北海道の人にも釧路湿原が知られていない。釧路湿原国立公園30周年のイベントで、札幌市の地下歩行空間などの場所を借りて、パネル展や自然保護官などの説明会などを開催してはどうか。無料で借りられるところに手を付けた方がいいと思う。
- 土砂の流入が一番の課題であり、住んでいる人の意識を変えなくてはならない。農協や森林組合を活かしながらやっていきたい。ある程度法的な拘束も必要である。産業と環境は一体だということで、みんな考えていきたい。
- 湿原の利用に関するルール作りについては、今あるルールの周知をやった方がいいのではないかと。具体的には、ツルを見るツアー会社の企画担当者へルールを周知してパンフレットに盛り込んでもらうことや、湿原利用のルールの普及方法の検討、美観を損ねない看板の設置に取り組んではどうかという話があった。方法としては例えば鶴見台などで、ツアーバスの中で、バスガイドに、ツルがびっくりしないよう大きな声を出さないなど、ルールを事前周知してもらうのが良いというような話もあった。
- 目標としては、持続可能なシステムを地域で構築することであり、観光と環境のバランスのとれた地域振興はどうやったら出来るのかということ。課題としては、多様化する観光をうまく取り込むために、ガイドの資格制度を設けて長期的に育成することや、観光客のやりたいアクティビティにマッチングした情報発信、観光インフラづくりとしてトレッキングルートの整備、カヌー業者の組合を作って協力し合えないかなど話が出た。また、環境と観光を両立して利用していくための財源として、入場料の徴収や、マップやグッズなどに自然保全料を含んでどうかという案もあった。
- 英語を話せるガイドはいるが、中国語や韓国語などを話せるガイドが少ないので、マルチな言語を話せるガイドの育成が必要。また、観光に関しては、情報発信サイトの一元化や、湿原祭り・カヌーマラソンなどの効果的なアピール、湿原保全にサポーターとして参加している方への湿原保全サポーター証の発行、釧路湿原での飛行船や気球などの話が出た。ガイドラインの関係では、ドローンやイトウ、サンショウウオなどに関して、何か出来ないかと考えている。
- 観光に関しては、釧路川の方に岩保木から水を流したい・カヌーで下りたいということや、弟子屈から標茶の間や国立公園内にトイレが足りないの、長期的な観点で、計画的にトイレを作っていく必要がある。また、今あるトイレで期間限定や時間限定のものがあるので、使える期間を延ばすなどの工夫が出来ないかという意見があった。このほか、観光情報の一元化や冬季の外国人観光客の移動手段の確保、お勧めの観光ルートを作ったの発信、釧路の人や子供たちがカヌーに乗っていないことの改善などの話もあった。ルール化については、ガイドのレベルや内容を統一するためにマニュアルや資料の提供が出来るのではないかと話があった。
- 課題としては、「住民全員が釧路湿原を知っている釧路地域をつくる」ということで、その目標達成のためには、人材の育成や、専門知識を持った人や機能の有効活用が必要。また、釧路湿原で行っている自然再生事業の取組の結果や成果が、地域の人々の暮らしなどに還元していく仕組みも必要という話があった。このほか、湿原検定や今よりも密度の濃い釧路湿原を紹介する冊子の作成や、子供たちや地域の人たちが釧路湿原に触れる機会が少ないので、学校行事や湿原に行く手段の確保が必要であるとの話があった。

第3回地域づくり小委員会 [出席者名簿 (敬省略、五十音順)]

個人 [13名]

神田 房行	杉山 伸一
甲斐田 直子	鶴間 秀典
木村 勲	野本 和宏
櫻井 一隆	平岩 誠
佐野 修久	平岡 俊一
新庄 興	平岡 清
杉澤 拓男	

関係行政機関 [7機関/7名 (一部兼任)]

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 釧路河川事務所 [所長 石谷 隆始]
環境省 釧路自然環境事務所 [国立公園課 課長補佐 杉本 頼優]
林野庁 北海道森林管理局 [釧路湿原森林ふれあい推進センター 自然再生指導官 立野 政信]
釧路市 [産業振興部 観光振興室長 三富 尚孝]
釧路町 [経済部 産業経済課 商工観光係 係長 大中 公史 (釧路川流域町村観光推進協議会と兼任)]
弟子屈町 [観光商工課 観光振興係 係長 守屋 憲一]
鶴居村 [産業振興課 課長補佐 小原 利也]

団体 [12団体/13名 (一部兼任)]

一般社団法人 釧路観光コンベンション協会 [専務理事 田中 正]
釧路川カヌーネットワーク [会長 小川 清史]
釧路川流域町村観光推進協議会 [事務局 大中 公史 (釧路町と兼任)]
釧路国際ウェットランドセンター [事務局長 菊地 義勝]
釧路湿原国立公園連絡協議会 [事務局次長 森 昌弘]
釧路シャケの会 [会長 小杉 和寛]
公益財団法人 北海道環境財団 [事務局次長 久保田 学]
公益財団法人 北海道環境財団 [環境教育推進課 安田 智子]
国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 水環境保全チーム [上席研究員 新目 竜一]
こどもエコクラブくしろ [近藤 一燈実]
特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所 [渡會 敏明]
特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ [井上 雅子]
北海道観光調査会 [代表 蝦名 弘幸]

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/index.html

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839